



学校だより 11号

令和5年3月1日

杉並区立済美養護学校

校長 伴 比佐志

<http://www.suginami-school.ed.jp/seibiyougo/>

「新たな生活様式のはじまり」

校長 伴 比佐志

徐々に春の暖かさを感じる日が増えていると実感します。2月中旬から、スギ花粉の飛散が始まったり、東京の桜の開花予想日が3月20日（月）前後という知らせが届いたり、春の本番が近付いています。

さて、令和2年の今頃は、新型コロナウイルス感染症は未知のウィルスであり、その感染と感染拡大への危機感が高まり、人々は神経質になりました。学校が臨時休業となり、卒業式や入学式は、規模縮小での実施や開式の中止を強いられました。感染抑制のための行動制限により、町中の人々が減少しました。そして、約3年が経ち、ウィルスの変異はありますが分析が進み、ワクチンの普及による、罹患率の低下や症状の軽症化、感染予防に関する人々の高い意識の維持ができており、“生活様式”は、さらに変わろうとしています。

学校生活におけるマスクの着用は、3月中旬から大きく緩和されることになります。新型コロナウイルスの類型が5類になっていない現在は、飛沫感染の可能性のある集団での歌唱を控えたり、十分な換気ができない集団活動の場面ではマスクの着用を推奨したり、依然として十分な感染防止対策を施す必要があります。そして、様々な事情により、マスクを外すことができない児童・生徒やマスクを着用できない児童・生徒には、個の思いや考えを尊重し、マスクの着用の有無で差別や偏見が生まれないようにする必要があります。

このような観点から、本校では、十分に換気ができ、飛沫感染等の心配のない学習場面において、マスクを外して行う学習機会を増やします。卒業式・入学式では、参列する児童・生徒及び教職員は、式全体を通してマスクを外せるようにします。式中歌は歌唱をせず、歌唱入りの楽曲を会場で流すこととします。これは、決して、学校生活の中で、マスクの着用を継続したい等の思いや考えを妨げるものではありません。今は、自らの考えや他の考えを尊重し、集団生活の中でお互いを認め合う時と考えております。

暖かく、たくさんの花が咲く春は、気持ちを新たにし、期待が膨らむ季節です。自他を認め、人権感覚や人権意識をしっかりと高め、次の“新たな生活様式”を、お互いに協力し合い、作り上げていきましょう。

中学部「学習発表会」

行事企画部 担当 宇田川 良行

2月4日の土曜日に中学部学習発表会が実施されました。発表会に向けて、日ごろの授業で学習したことを劇やストーリーにのせて練習してきました。学習で身につけた、できるようになったことを大勢の方が見ている中、舞台の上のスポットライトを浴びて発表することは、どの生徒にとっても緊張感を伴うものになります。ドキドキした気持ちを感じながら精一杯発表している生徒たちの姿は、輝いていました。大勢の方から受けた拍手や手拍子、そして、みんなの前で発表できたという自信と達成感は、生徒たちをたくましく成長させるものになることでしょう。

また、中学部では各学年の舞台発表に加え、作業学習で製作、栽培した製品や野菜を販売する作業販売も行いました。各学年の舞台発表の幕間にそれぞれが作った、育てたものを保護者の方に見ていただき購入していただきました。自分たちが作ったものがお客様に評価され、受け取っていただける機会を通して、働くことへの意欲や喜びを味わうことができました。保護者の方々からの温かいまなざしや声援を受けて、体育館いっぱいに笑顔が広がっていく様子がみられました。保護者の皆様の御協力に、感謝申し上げます。



作業販売の様子

※教育調査の結果は、別紙資料をご覧ください。御協力をいただき、ありがとうございました。